

アークフラッシュ施工された老人施設からは5年間インフルエンザの発症が報告されておりません。

<< 通販開始 >> <http://homepage2.nifty.com/arc-clean/>

<< 施工後のお客様からの嬉しい報告。 !! >>

* 新横浜国際ホテル B - sports(9月19日施工)

「今回、光触媒アークフラッシュを導入するに当たって、社内で色々クリアしなければならぬ問題を、業者さんが一緒に親身になって相談に乗って頂いた事をまず感謝いたします。当施設は地下1階に有るため階段を降りて来た踊り場当たりからプールの塩素臭・汗の臭いなどが気になっていました。実は現場で働く我々は臭いに慣れてしまっていて、上司が感じる臭いとかかなりの差がありました。

施工を行って数日後、副支配人から「臭いが無くなった！」というお褒めの言葉を頂きました。

我々はその空間の中で勤務しているので実際の現場では、下駄箱・ロッカーの臭いが一番気になっていましたが、施工以来それすらが無くなっている事に驚いています。当施設をご利用いただいているお客様は昔からの常連様が多く、この変化を誰よりも感じ、誰よりも喜んで下さっているに違いありません。

我々スタッフも今回の導入をきっかけに、また新たな「価値観」と「差別化」また「ホスピタリティ」のご提供を広く、会員の皆様に知っていただくよう、業者さんに頂いた「施工済みシール」を全てのロッカーと下駄箱に貼らせて頂く事にしました。

気持ちよくお客様を迎えるために、スタッフが気持ちの良い環境の中で従事すること大切さを教えていただいた事に、従業員一同本当に感謝いたしております。取り急ぎお礼まで。

新横浜国際ほてる B sports 横浜
マネージャー
須田 浩一



* 栃木県在住 皆川様から(8月20日施工)

施工から2ヶ月が過ぎ、その後の様子が気になってお電話を入れさせて頂きました。こちらのお宅の、中学生と高校生のお子様は、「自分の部屋にいると目が痛くなる」と言って、寝るときは1階の主寝室で親子4人川の字で寝ていました。周りは自然環境一杯の条件の中でも、シックハウスが有るのかぁーという感想を施工に伺ったときの記憶として覚えています。

先日、その事を尋ねて見ると「そういえば、あの後、少ししてから、それぞれの部屋で寝るようになったし、目が痛いといわなくなった。」と言うことでした。お役に立てたと思い、ほっと胸をなでおろした心境でした。

<<鳥インフルエンザ情報>>

中国衛生部の高強・部長はカナダのオタワで現地時間の24-25日に開かれていた国際的なインフルエンザ対策会議の席上、「中国では最近、湖南省、安徽(あんき)省、内モンゴル自治区などで鳥インフルエンザの発生が確認されているが、人への感染は報告されていない」と発言した。26日付で中国新聞社が伝えた。

世界的な鳥インフルエンザの拡大を背景に、都の新興感染症対策会議は新型インフルエンザが発生した場合の対策を盛り込んだ報告書をまとめた。大規模流行期には都が「感染症緊急事態」を宣言し、公共交通機関の運行縮小や集客施設などの事業自粛を求める。都は11月中に、今回の報告を基にした「新型インフルエンザ対策行動計画」(仮称)を策定する。

鳥インフルエンザのヒトへの感染が広がると、ヒトからヒトへと感染する能力を持った新しい型に突然変異する可能性が高まると言われている。03年春に発生した重症急性呼吸器症候群(SARS)も新型感染症の一種だった。

報告は、新型インフルエンザが発生した場合、都民の約3割がり患すると想定。受診者約379万人、入院患者は約29万人で、ピーク時は一日に最大2万6500の病床が必要になると見込み、段階別に求められる対策や医療体制などを列挙した。

都内流行期は、都知事が不要不急の外出や催し物の自粛を呼びかける「流行警戒宣言」を出す。専用病棟の確保をはじめ、学校体育館などを臨時医療施設として活用できるように準備。また、重症化しやすい高齢者などに外出の自粛を求め、地域団体や事業者の協力を得ながら食料や生活必需品の配給、介護の支援を行う。

「緊急事態宣言」を出す大規模流行期には、範囲と期間を限定した公共交通機関の運行縮小やスタジアム・劇場などの集客施設を中心に、事業活動を自粛するよう協力を訴える。

報告書は現在を「発生前期」の段階と位置付け、感染症全般の発生動向の分析強化などを求めている

中国農業省が国際獣疫事務局(OIE)に26日までに報告したところによると、中国湖南省湘潭県でニワトリ、アヒル687羽が鳥インフルエンザ(H5N1型)に感染し、545羽が死んだ。OIEがウェブサイトを通じて公表した。

オタワで開かれていた世界30カ国の政府高官による鳥インフルエンザ対策国際会議は25日、感染発生に関する情報の共有や国連をはじめとする国際機関の主導的役割の重要性を確認する声明を取りまとめ、2日間の日程を終えた。

声明は全18項目で、「現時点ではインフルエンザの大流行は見られない」との認識を示す一方、鳥からヒトへのウイルスの感染能力に関する研究推進や関連機関同士のネットワーク拡充を勧告した。

*** 発行責任者: 株式会社アークフラッシュ本部**

笹川 透

03-5337-7275 FAX 5337-7465 honbu@arc-flash.com

1号～25号までを配信希望の方はメールにて申込ください。